

大学院入試経験談

2017Aクラス 王兆卿

私は中国国内で2回も大学受験の失敗を経験しました。専門学校を卒業して2年が経ち、私は日本への留学を決め、亜細亜友之会外語学院に入学しました。ゼロからスタートした私でも、最終的に東京にある名門の明治大学と青山学院大学に合格することができました。参考程度ですが、ここで私の経験を皆さんと共有したいと思います。

日本に来たばかりの頃、私は早速日本語の勉強に取りかかりました。私の質問に対して、どんな些細なことでも担当の齋藤先生が熱心に答えてくださいました。基礎を固めたことが、私の日本語レベルの躍進につながったのではないかと思います。来日半年後、先生方の丁寧なご指導と自信の努力によって、N2級試験で171点を取得しました。その後、私は大学院の進学試験に挑みました。東京の名門大学の合格、最終的に国立大学の合格という目標を立てました。各大学のホームページの閲覧、また福原先生と小野先生からも各大学の入試に関連する情報を入手し、出願から試験までの一連のプロセスに認識を深めました。その中では、留学試験と英語の成績が重要になってくると思います。

まず、英語の成績についてです。私はもともと英語が苦手で、もう一度英語を勉強しようという気持ちになかなかありませんでした。TOEFLとTOEIC試験では、それぞれの試験前、2か月をかけて50%の正解率をキープできるように努力をしました。私の場合、中国の「大学英语」4級レベルの単語から覚え、学院の塾にも参加し、問題集を地道に攻略していく方法で、英語の試験をぎりぎりクリアできました。

次は、日本留学試験についてです。私は計3回も留学試験に挑みました。1回目の成績はひどいものでした。試験の後、学院の先生方から暖かい声援をいただきました。そのおかげで、私は立ち直ることができました。それぞれの成績が以下のとおりです。480点、540点と658点です。留学試験にあてる時間が限られていますので、合理的時間の配分と合理的なプランの実行が必要です。留学試験で日本語テストの部分で320点を取った私は、より多くの時間を日本語以外の理系科目の準備に当てる戦略にしました。ここで、担任の福原先生に感謝したいと思います。日本語の授業中、私に厳しくご指導をくださり、放課後の時間を十分利用して理系科目の準備に専念するというアドバイスもいただきました。そのおかげで、私の日本語成績がさらに良くなりました。

私は中国の高校で化学の勉強をしたことはありませんでした。それ以外の基礎知識もほとんど忘れてしまいました。そのため、まず半年間をかけて基礎知識の復習をしていました。いきなり過去問題集を解くことからではなく、まず学院の塾からたくさんの資料をいただき、基礎知識の勉強に励みました。理系知識の基礎を固めてから、得意なところに重点を置いて準備にあたります。それから、また半年間をかけて過去問を解く練習に入ります。その際、試験時間、回答ペースの把握、及び知識の系統化をすることをおすすめします。

留学試験と英語資格の取得が終わったあと、私にとっての難関である大学ごとの入学試験に挑みます。理系の場合、理系専門分野のテスト及び小論文に分けられます。私は、理系専門分野の準備に多くの時間を費やしたので、試験で専門分野の割合が大きい大学に絞ることにしました。多くの大学の出題は基礎知識の割合が大きい傾向にあります。半年間をかけて基礎を固めたため、筆記試験の部分を順調に突破することができました。面接は私の苦手な部分です。学院の先生方が丁寧にご指導くださったおかげで、私のスピーキングもだいぶ上達するようになり、本番のときに流暢な日本語で回答することができました。理系の面接では専門知識の出題もしょっちゅう行われます。事前に関連知識の表現を日本語で覚えて面接に臨んだため、より良い回答ができ、指導教授に良い印象を与えることができました。

進学に費やした2年間を振り返って、私は一生懸命努力をしました。ここで、亜細亜友之会外語学院学院長や石川先生をはじめ、各先生方に御礼申し上げます。先生方のおかげで私は大学院の入学試験に合格することができました。亜細亜友之会外語学院で学んだ2年間は私にとっての宝物です。